

The Learner

Doshisha International Academy Elementary School

November
ISSUE



November, 2021
Volume 117

Key Concept を考える

今年の10月は例年になく暑く、中旬になってもエアコンを使う日々でしたが、スポーツデーのころには急に涼しくなり、最近はめっきり秋らしくなってきました。

さて、今回のラーナーでは、Key Concept について、皆様とお話したいと存じます。IBにはもともと8つのKey Conceptがあつたのですが、時代の変化に合わせて変更をしており、現在以下の7つになっております。

Form (特徴)

Function (役割・働き)

Change (変化)

Connection (関係・関連)

Causation (原因・因果関係)

Responsibility (責任)

Perspective (視点・見方)



以前はここに Reflection (振り返り) が加わっていたのですが、自分の学びの足跡を振り返ることは、学びのどの段階においても必要であることから、上記の7つに吸収されました。

さて、この7つのKey Conceptは、物事を多角的に見るための重要な役割を果たしており、6年生のエキシビションではすべてを使って自分が探究したい事柄をクエスチョンにしていきます。例えば「保護犬」がトピックだとすると、Key Concept クエスチョンはこんな風になります。

・Form「日本の保護犬の数はどれぐらいだろう。」

・Function「動物保護施設の役割は？」

・Change「保護施設はいつからできたのだろう。できた当時と今では、その役割に変化はあるのだろうか。」

といった具合です。クエスチョンを立てるのが難しいのは Perspective です。これは「見方を変えてみたらどう見えるか。」ということで、例えば日本と海外、子どもと大人の考え方の違いや、「今はこうだけど、昔はこうだった。」といったように考えるとわかりやすいかもしれません。

さて、その Perspective、私事で恐縮ですが、こんな体験があります。私はお豆腐に醤油やゴマ、刻んだネギや擦り下ろした生姜をのせて食べるのですが、ある日夫がブルーベリージャムをのせて食べているではありませんか。「それは醤油をかけて食べるものだ。」と伝えたのですが、「非常においしい。一度試してみてください。」とすすめるので、食べてみたのです。するとこれが意外に合う組み合わせで、「お豆腐はデザートとしても食べられるのか。」と思ったのです。

他にも、日本では主食のお米ですが、ヨーロッパには「ライス・プディング」というスイーツがあり、初めて食べたときはびっくりしました。

この話をすると子どもたちもすぐに Perspective を理解します。保護者の方がされた、「視点が違うからこそ生まれた体験」も、ぜひお子様にもお話ししてあげてください。

PYP Coordinator ロハス 亜紀





キリスト教 教育テーマ

11月：感謝 November: Gratitude

「安息日に律法で許されているのは、善を行うことか、悪を行うことか。命を救うことか、殺すことか。」

マルコによる福音書 3章 4節（聖書協会共同訳）

今月は6年生が修学旅行で広島に行くことになっています。本来は熊本もコースに入っていましたが、直前まで緊急事態宣言が出ていたこともあって、今回は残念ながら熊本訪問は実現しませんでした。しかしながら、私自身は訪問のための事前学習で色々有益な学びをすることができ、それを短時間ですが6年生に授業する機会も与えられました。ここでは、予定の訪問先だった施設の一つ「慈恵病院」のお話をしたいと思います。既にご存じの通り、慈恵病院は初等部児童が毎月行っている「おにぎり献金」の寄付先の一つです。おにぎり献金は本来、東日本大震災を機に被災者を覚え、支援する目的で始まった募金で、本校では特に岩手・福島の2幼児施設のために献金を捧げてきました。しかしその後、卒業生の一人が自らの探究学習をきっかけに、「おにぎり献金を通して慈恵病院への継続的な援助をしてほしい。」と熱心に申し入れてくれたので、2018年度よりおにぎり献金による病院への寄付を始め、現在に至っています。

慈恵病院は主に産婦人科・小児科を専門としておられる病院ですが、実は広い敷地には様々な建物があり、幼稚園やシスターが暮らしておられる修道院などもあります。そしてその中に、元ハンセン病療養所だった「コール館」と呼ばれる建物があるのです。これは昔、フランス人宣教師ジャン・マリー・コール神父（Jean Marie Corre、1850年6月28日 - 1911年2月9日）が熊本に伝道に来た際、本妙寺周辺のハンセン病集落の悲惨な状況に心を痛めて、彼らのために診療所を開いたことに由来しています。彼がローマの修道会に応援を頼むと、5人のシスターたちが来日し、神父と共にハンセン病患者の治療に当たりました。その時、患者の中に若い母親がいて、自分の赤ちゃんに十分なケアをしてあげることができず、悲しむのを見た神父とシスターたちは、それをきっかけに孤児の世話にも力を注いでいきました。その後、この施設は私立のハンセン病療養所として、1898年の創設から114年間活動を続けました。そして同じ年の10月、コール神父と5人のシスターたちによって同敷地内に開かれた「慈恵診療所」こそ、現在の慈恵病院の前身となるのです。

現在、慈恵病院の「こうのとりのゆりかご」という取り組みは「赤ちゃんポスト」の呼称で知られ、マスコミにも取り上げられて一躍有名になりました。様々な事情から自分が産んだ赤ちゃんを育てられない母親が最後の頼みの綱として身を寄せ、匿名で赤ちゃんを預けることができるこの病院のシステムには、賛同する人と反対する人がどちらも一定数存在します。反対意見として登場する第一のものは、「自己責任論」です。「自分が産んだのだから、きちんと自分で育てなさい。」というわけです。「でも、母親は一人で悪阻の苦しみを乗り越え、何ヵ月もの間重くなっていくお腹の中で赤ちゃんを育み、孤独の中で出産し、悩みに悩みぬいた末、ようやく決心してここへ赤ちゃんを預けに来たのです。そのことにどれだけの勇気が要ると思いますか？」とは、新生児相談室の養護教諭の方がおっしゃっていたお言葉です。慈恵病院に至るまでにこの地域に根付いてきたキリスト教福祉の長い歴史を見ても、唐突に赤ちゃんポストができたのではないことがわかります。どこにも頼ることができない若い母親の悩みを真摯に受け止め、共に重荷を担って来た幾多の人々の祈りと実践の積み重ねの年月が、現在の慈恵病院の基礎となっています。

「そして、(イエスは)人々にこう言われた。『安息日に律法で許されているのは、善を行うことか、悪を行うことか。命を救うことか、殺すことか。』彼らは黙っていた。」マルコによる福音書 3章 4節（聖書協会共同訳）

イエス様の問いかけに我々は黙っていないで、「それは命を救うことです。」と、はっきりお答えしようではありませんか。

Christian Education Committee チャプレン 石川眞弓

<お知らせ>

- ・11月5日（金）は、「収穫感謝礼拝」です。お子様に米一合を、お持たせください。

礼拝で感謝して捧げた後、生活困窮者の施設へ寄付します。

- ・11月のおにぎり献金は、11月9日（火）です。感染症予防のため、献金は小袋に入れてお子様にお持たせください。ご協力をよろしくお願い致します。
- ・11月26日（金）は、点灯式礼拝です。

礼拝は児童のみで朝に行い、点灯の儀式は夕刻に各自自宅にて、オンラインで見届けます。



Grade 3 アイデンティティーと新島襄

自分探しの旅♪

唐突ですが、自分のアイデンティティーについて考えられたことはありますか。自分が自分であるとはどういうことでしょうか。What identifies me? もしかしたら、学生時代に「自分探しの旅」に出られた方がいらっしゃるかもしれません。外国に行ったり、バイクでツーリングしたり、スカイダイビングをしたり、朝まで友達と語り合ったり、誰もが「自分って何者?」と悩んだ頃があったはずですよ。

G3のUnit 4では、「アイデンティティー」をテーマに探究します。いわば「自分探しの旅」の小学生版です。子どもたちは、家族や友達、習い事、毎日通っている学校、これまでに出会ってきた人々、がんばっていること、将来の夢などを通して、「自分が自分であること」について考え、自分自身を深く見つめようと頑張っています。

同志社の一員として

このユニットでは、ゲストの先生方にもご協力いただきます。ユニットの始めには、同志社大学日本語・日本文化研究センターの松本秀輔先生を迎えました。同志社大学にはいろいろな国から留学生が来ており、その留学生たちに日本語を教える仕事があり、仕事を通じて、たくさんの出会いがあることを知りました。また、文化祭やアルバイトなど、同志社大学生の生活を覗き見る楽しい時間にもなりました。

ユニットの半ばには、松本博行氏より土倉庄三郎さんのお話を伺いました。土倉庄三郎さんは、山林王と呼ばれた奈良県川上村の偉人で、設立時の同志社に莫大な寄付をされた方です。続いて、元同志社中学校教諭で登山家・写真家の田島繁先生より、新島襄の足跡を辿って日本中を歩き、世界を旅されたお話を伺います。

このように、Unit 4では、新島がスタートした学校が多くの人々の思いを繋ぎながら現在に至っていることを考えます。一人ひとりが同志社人としてのアイデンティティーを持つ時間にしたいです。現在取り組んでいるクリスマス・ページェントもその一つです。

イエス様の誕生をお祝いしましょう

来月はクリスマスです。DIAでは、12月3日にクリスマス礼拝を持ち、全校生徒でイエス様のご生誕をお祝いします。例年、礼拝の生誕劇の部分を3年生が担当しています。

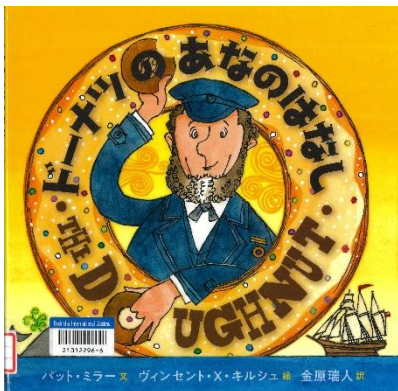
今年もチャペルでの練習がスタートしました。夏休みから台詞を練習し、ナレーターもキャストも裏方さんも、それぞれの責任を持って頑張っています。今年も皆様と共に温かい気持ちでクリスマスをお祝いしたいです。



からのおしらせ

Be an Inquirer～探究心に火をつけよう！～

「ドーナツのあなのはなし」パット・ミラー作
廣済堂あかつき



皆さんは、ドーナツは好きですか。「食欲の秋」、ハロウィンが近づくとオレンジ色のアイシングで化粧をしたドーナツが店頭並び、どれを選ぶか一苦労です。でもみなさんは、どうしてドーナツのまんなか穴が開いているのか不思議に思ったことはありませんか。その秘密を知ることができるのがこの本です！グレゴリー船長が登場するのですが、これは実話のもとになっており、彼のお墓が今もボストンにあるそうです(ボストンと言えば、Dunkin' Donuts や Mister Donut の生まれ故郷です!)。さてドーナツの穴はなぜできたのでしょうか。

「プレッツェルのはじまり」エリック・カール作
偕成社

プレッツェルのはじまり



皆さん、プレッツェルはなぜこのような不思議な形なのか知っていますか。皆さんもきっと大好きであろう「はらぺこあおむし」で有名なエリック・カールさんが、故郷のドイツでおばあさんに聞いたお話をアレンジして作ったのがこの物語です。町のパン屋さんのウォルターは、ある日パン作りに失敗してしまいます。この失敗がプレッツェルの発明にどうやら関係があるらしいのです。

皆さん、是非 Inquirer になって、生活の中の不思議を探究してみてください。

11月の主な行事・予定

1	月	
2	火	
3	水	文化の日 / Culture Day
4	木	教員研修 / Teacher Training (午前授業)
5	金	収穫感謝祭
6	土	
7	日	
8	月	
9	火	
10	水	
11	木	6年生の修学旅行 / Grade 6 Overnight Trip
12	金	
13	土	
14	日	
15	月	
16	火	
17	水	
18	木	
19	金	10周年記念式典 / DIA 10th Anniversary Ceremony
20	土	
21	日	
22	月	
23	火	勤労感謝の日 / Labor-Thanksgiving Day
24	水	
25	木	
26	金	点灯式 (online)
27	土	
28	日	
29	月	創立記念日 / Doshisha Foundation Day
30	火	

12月の主な行事・予定

12/3	クリスマス礼拝 / Christmas Worship Service
12/17	終業礼拝 / Closing Ceremony (午前授業)